

県政タウンミーティング会議録

開催日時 令和2年12月15日(火) 18:00~19:30

場 所 Mウイング文化センター6階ホール(松本市中央)

テ ー マ 「県民一体となってコロナ禍をどう乗り切るか」

参 加 者 54人

進行役(敬称略)

伊藤 かおる(㈱コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長)

パネラー(敬称略)

上間 春江(子どものミカタプロジェクト 代表)

三村 仁志(障害者支援施設ささらの里 施設長)

小岩井 清志(南安タクシー(有) 代表取締役)

磯尾 広志(㈱酒楽 代表取締役社長)

長野県知事 阿部守一

【松本地域振興局長 草間康晴】

皆様、大変お待たせをいたしました。ただいまから県政タウンミーティングを開催いたします。本日の進行を務めます、松本地域振興局長の草間康晴と申します。どうぞよろしく願いいたします。

この県政タウンミーティングは、知事が県内各地に伺って県民の皆様と意見交換を行うもので、今回は松本地域「しあわせ信州移動知事室」に合わせて開催をさせていただきます。

11月以降、県内においても新型コロナウイルスの感染が拡大しており、これから本格的な冬を迎える中で、この第3波を何とか乗り切らなくてはならないという状況でございます。このことから、本日は「県民一体となってコロナ禍をどう乗り切るか」をテーマに皆様と意見交換を行いたいと考えております。

なお、本日の意見交換の内容はお名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページで公開をさせていただきますのでご承知おきください。また、本日は新型コロナウイルスの感染対策ということで、席をそれぞれ間隔を取って配置させていただいておりますので、よろしく願いいたします。

また、本日は取材の関係で報道の方がおられます。大変恐縮ですが、皆様の中で、取材の映像使用等について支障のある方がもしいらっしゃいましたら挙手をいただけますでしょうか。よろしいですか。では取材についてご了承を願いたいと思います。

また、本日は手話通訳をお願いしております。長野県では、平成28年3月に手話言語条例を制定し、障がいのある方もない方も、互いに支え合いながらともに生きるために、誰もが手話に親しみ、

手話に対する理解を深め、日常生活で手話が広く利用される長野県を目指しております。よろしくお願いいたします。

今回、冒頭でもお話ししましたとおり、「県民一体となってコロナ禍をどのように乗り切るか」を意見交換のテーマとしております。新型コロナウイルスの影響を大きく受ける「教育・子ども」「福祉」「交通・観光業」「飲食業」のそれぞれの分野において、現場でコロナウイルスに対応していたいております4名の方をパネラーとしてお招きをいたしました。

それでは、ここで本日お招きした方々をご紹介します。本日お配りをしました資料の中に、4名のパネリストとファシリテーターの伊藤様のプロフィールが入っておりますので、私からはお名前と所属等についてご紹介をさせていただきます。

まず、皆様から向かって正面に座っていただいている方、子どものミカタプロジェクトの上間春江さんです。そのお隣、障がい者支援施設ささらの里施設長の三村仁志さんです。そのお隣、南安タクシー有限会社代表取締役の小岩井清志さんです。最後に、そのお隣、株式会社酒楽代表取締役社長の磯尾広志さんです。ファシリテーターは株式会社コミュニケーションズ・アイ代表取締役社長の伊藤かおるさんです。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。初めに阿部知事から、挨拶及び現状の説明について申し上げます。阿部知事、よろしくお願いいたします。

【長野県知事 阿部守一】

改めまして、皆さんこんばんは。今日は大変お忙しい中、大勢の皆様方にご参加いただきまして大変ありがとうございます。また、ファシリテーター、パネラーの皆さんにもご参加いただきまして大変ありがとうございます。

今日は移動知事室ということで、松本圏域各地を回ろうと、当初企画しておりましたが、先ほど局長からのお話でも申し上げたように、今、県内においても、新型コロナウイルスの新規陽性者の数が、この数日1週間当たり大体150名前後で推移しているという状況の中で、少し取り組みを絞ってコロナに関係することだけで、今回、移動知事室を行わせていただいています。

今日、松本市立病院にお伺いをして、その後、先ほどまで松本広域の市町村長の皆さんと、ウィズコロナ・アフターコロナについて意見交換をさせていただき、そしてこちらにお伺いをして、皆さんと、このパネラーの皆さんのお話を伺いながら、一緒になって「県民一体でコロナ禍をどう乗り切るか」というテーマで、このタウンミーティングを行いたいと思っています。

県民一体となってというタイトルをつけさせていただいていますけれども、なぜ私がそう思っているかという、この間、アメリカ大統領選挙があって、民主党・共和党、バイデン陣営・トランプ陣営、同じ国なのに何か違う方向を見ているのではないかなというような感じで選挙が行われていたと思っています。報道で知る限りですから、そういうことばかりではないのかもしれないです

けれども、非常にクローズアップされた大統領選挙だったのではないかなと思っています。

今日は、いろいろな分野のお仕事の方に集まっていますけれども、この新型コロナウイルスの影響は、社会全般、産業全般に大きな影響を与えています。もちろんお仕事によってであったり、暮らしている地域であったり、あるいは、私のほうからとりわけ、ご高齢の方とか基礎疾患がある方は、特に気をつけてくださいという呼びかけをさせていただいています。例えば若い人とお年寄りであったり、この新型コロナウイルスの影響の受け方というのは、地域によったり、仕事によったり、あるいは年代によったり、同じ新型コロナと言っていますが、かなり違う影響であったり、ダメージであったり、そうしたものを及ぼして非常に厄介なウイルスだと思っています。

誹謗中傷をなくしましょうという呼びかけもさせていただいています。この新型コロナの受け止め、アメリカの共和党と民主党でかなり受け止め方が違っている、トランプ陣営とバイデン陣営の選挙戦のやり方も全く違っているというようなことでも分かるように、人によってのこの危機の受け止め方、極めて深刻で不安に思っている方と、新型コロナといってもインフルエンザより亡くなる人が少ないのではないかなと思っています。でも、本当にいろいろな方がいらっしやいます。でも、現実的に今この新型コロナで陽性になられて入院されている方も大勢いらっしやいます。そして、全国あるいは世界では、お亡くなりになられている方も大勢いらっしやいます。本県でもお亡くなりになられている方がいらっしやいます。

そうした中で、やっぱり県民の皆さんの思いを一つにして協力して支え合ってこの危機を乗り切っていくことが、今、非常に重要だと思っています。そういう意味で「県民一体となってコロナ禍をどう乗り切るか」ということを皆さんと一緒に考えていきたい。私も私の考えを、思いをお伝えしたいと思えますし、ぜひそれぞれの皆さんからも率直なご意見を聞かせていただきたいなと思っています。

今の状況をお話し申し上げたいと思います。これが長野県における新規陽性者の数、日ごとの陽性判明日ベースでありますから、検査結果が出た日で棒グラフにしているという状況であります。この11月以降、三たび、陽性者の数が増えて、一時、落ち着きつつあるかなと思いきや、また陽性者の数が増えてきているという状況であります。

後ほど地域別の図が出てきますけれども、長野県は非常に広い圏域です。先ほども松本圏域の市町村の皆さんとお話をしましたが、松本圏域は、この1週間の新規陽性者の確認された件数は7件ということで、今、レベル4にさせていただいている北信圏域などと比べると、松本圏域は、今の時点は少ないという状況であります。

ここに長野市・県と書いてありますのは、県内は、基本的に長野県が保健所を設置していますが、長野市は保健所設置市になっていますので、長野市だけ保健所を持っています。来年4月から松本市も保健所設置市になりますので、来年4月以降の統計上は、ここにもう一つ、松本市の保健所の件数が出てきます。今、長野市と県で保健所をしていますので、それぞれの保健所の管轄で出

しています。

この頃は、長野市でかなり陽性者数が多かったですけど、一時期、長野市が多い時期もありますが、医療機関で集団感染が起きたということでもあります。全体的には少し、この頃に比べると長野市は落ち着いているという状況です。

それから、先ほどは検査で陽性になった人の件数ですけども、こちらは療養されている方の数であります。黄色のところは病院に入院されている方、それから青のところは、いわゆる宿泊施設、今、県内に2か所、中信地域と東信地域に2か所開設をしておりますけれども、その宿泊施設に入っている方、それから紫色のところは自宅療養されている方、その他調整中というのは、その時点で調整中であり、この3つのいずれかには属する形にはなっていると思います。こういう区分であります。

先ほどご覧いただいたように、当然のことながら、陽性者の数が増えれば療養者の数も増えてくるという形になりますが、今、私が少し心配している状況は、この入院者に占めるご高齢の方の割合が52%という形で、実はいわゆる第2波と称しているときの頃は、若い人たちが多かった状況ですが、今、ご高齢の方が多いということで、やはりご高齢の方は重症化リスクが高いと言われております。また、どうしても入院されると比較的若い方に比べると長期の療養が必要となる可能性が高いので、ご高齢の方の入院の割合が増えてきているというのは、我々としては要注意のポイントだと思っています。

県内の医療機関にお願いをして、新型コロナウイルス感染症の患者の方350人を受け入れていただける形で、それぞれの医療機関にお願いをさせていただいています。積み上げると350床という形になっています。それが、今、この入院されている方を分子にすると47.7%という数字になりますけれども、今の療養者の発生は、かなり地域が偏っています。いわゆる北信圏域に偏っている状況でありますので、北信の医療機関の皆さんには、このいわゆる350床として登録をさせていただいている以上に受け入れていただいているという現状があります。そういう意味で、一部の医療機関には、かなり負荷をかけてしまっているという状況になっています。

そうすると、本来は350床よりももっと受け入れているわけでありまして、それを分子・分母から除いて、確保している350床に対してどれだけ入院患者の方がいらっしゃるかということを経算すると、昨日の夜の時点で38%となり、約10ポイント程度、実質の病床使用率は下がるという状況になっています。

それから重症者の数ですけども、今、重症の方が県内で5名いらっしゃり、重症者用病床48床に対しては10.4%という状況であります。気管挿管されたり、いわゆるECMO（エクモ）、人工心肺を使われるということになりますと、かなり医療関係者の人的負担が重くなります。私も医療の専門家ではないですけども、ECMOを使用して人工心肺で、自力で呼吸されない方にECMOを装着すると、10人ぐらい医療従事者の手がかかると伺っています。我々としては、この重症者の数が増えるということになると、命に直結する状況になってしまいますし、また、医療機関の負荷

も、いわゆる軽症者、あるいは無症状の方も陽性になられた方の中には一定数いらっしゃいますので、そうした方に比べると、やはり重症者の方の発生を何とか少なくしていきたいというのが我々の今の方針でありまして、そのための取り組みや呼びかけを、今、させていただいているところがあります。

それから感染警戒レベルですけれども、ご覧いただくと、ここが圏域ごとの人口10万人当たりの新規感染者数であります。これが実際の直近1週間の圏域ごとの発生者であります。ご覧いただくとよくお分かりになりますが、かなり地域によってばらつきが大きいという状況であります。一番突出しているのは、人口当たりで見ますと70.55ということで、東京都全体よりもかなり大きな数字に北信圏域はなっています。北信圏域だけ特別警報ということで、飲食店関係の人たちには大変申し訳ないですけれども、ガイドラインを遵守していない、接待を伴う飲食店の利用は控えてくださいというようなことを、今、北信圏域の一部の市町村にはお願いをさせていただいているという状況であります。

それから全県は、今、警報ということで、この圏域ごとにばらつきはありますけれども、先ほど申し上げたように、医療は、実は圏域ごとで対応していただいているのはありますけれども、ただ、広域で、松本圏域でも長野圏域の皆さんを医療機関は受け入れていただいているという状況もあります。そういう意味で、この新規陽性者の確認件数はばらつきがあって、南信州は1週間ゼロという状況ではありますけれども、県全体でしっかり警戒をしていただいで、どこかでクラスターが発生するような事態が生じると、例えば集団感染、介護施設とか、そういうところで発生すると、急に陽性者が増えて療養者も増えるという形になりますので、県全体に警報ということでお願いをさせていただいているというのが現状です。

それから全国の状況、紫のところは、人口10万人当たり15人以上の新規陽性者、直近1週間に出ているところでもありますけれども、今、私どもとしてお願いしているのは、北海道とか、東京・埼玉・神奈川・愛知、あるいは大阪・兵庫・京都とか、こういう紫色の地域については、訪問自体を慎重に検討してくださいということです。行く目的が、例えば飲み会みたいな感染リスクが高い状況であれば、そうした訪問は控えてください、そして重症化しやすい方とか、そのご家族は、慎重な行動をしていただきたいというお願いをさせていただいています。

それから5人以上の都道府県のところは、このクラスター発生のおそれがある場所への訪問、長時間にわたる飲食、そういうものは控えてくださいということで、慎重な行動をしてくださいというお願いをさせていただいている現状であります。

それから、皆さんも何度も何度も同じようなことを言われていて、もう聞き飽きたという話だと思えますけれども、「新たな日常のすゝめ」ということで、基本的な感染症対策を常におんをさせていただいております。ウイルスを目・鼻・口から入れないことが最も重要ということで、県の専門家懇談会の皆さんと話をすると、いろいろ細かいことを言うよりも、基本的なことを県民の皆さんに何度も繰り返し伝えたほうがいいのではないかとされています。

目・鼻・口から入ることをどう防ぐか、生活の場面とか仕事の場面というのは、もちろん暮らし方、働き方で様々でありますけれども、ぜひ、目・鼻・口からウイルスが入らないように感染防止してもらおう、自分の健康を守っていただくということが重要でありますし、そのためにマスクの着用とか、人との距離を確保するとか、3密を避けるとか、大声を出さない、こういうことをぜひ徹底いただいて、ぜひ一緒に乗り切っていきたいと思っています。

会食時の注意とか、換気の工夫とか、保湿の実施とか書いていますけれども、冬場になりましたので、この換気と加湿、保湿と書いてありますが、保湿、加湿の2つも、ぜひ気をつけていただければありがたいなと思っています。

それから、旅行される方には「新たな旅のすゝめ」ということで、「旅マエ」・「旅ナカ」・「旅アト」、困ったときの相談窓口とか、旅行者向けにもこういう呼びかけをしています。「旅マエ」は2週間、自分の健康状況を観察してもらって、発熱等の症状が10日以内にあるような方は、旅行は控えてくださいということでもあります。

この新型コロナウイルスは発症前2日から濃厚接触者の扱いにしています。発症前でも、要するに自分で全然自覚がなくても、もしかしたら感染している可能性があつて人にうつす可能性がありますし、先ほど申し上げたように、無症状の病原体保有者の方も一定程度いらっしゃいますので、全く自分は元気でも、人にうつしてしまうという可能性があるということ、県民の皆さんも、旅行者の皆さんも、常に意識をしていただきたいと思っています。

それから「“あかりをともしよう”キャンペーン」ということで、先ほども触れましたけれども、この間、非常に誹謗中傷の問題が、コロナウイルスとの闘いと併せていろいろなところで問題になっています。残念ながらうちの県内でも誹謗中傷の事例がいろいろあつて、県も相談窓口をつくっていますけれども、相談を受けることもあります。

「ココロのワクチンプロジェクト」というのは、スマホをお持ちの方は「ココロのワクチン」というのでセルフチェックしてもらって、どういうことで差別や誹謗中傷が生まれてしまうのかということ、ご自分で気がついていただくということをやっています。また、いろいろな方からいろいろなメッセージをいただいて、今後「ココロのワクチン」に取り組んでいただいた方に、何かお店と連携して優遇するようなことができないだろうかということを考えています。

ぜひ、今、新型コロナウイルスで、差別とか、誹謗中傷する気持ちというのは、それをやる側の方も非常に不安をお持ちなのだと思います。ですから、その不安な気持ちというのは、みんな持っているはずなので、何かあの人は誹謗中傷する側でけしからんということも、またあまり思い過ぎてもいけないのだろうなと思っていますし、ぜひご自分の心の動きというのを、見つめ直していただけるとありがたいなと思っています。

もう一つ、皆さんに年末年始のメッセージというのをお配りさせていただいていると思います。「命の大切さに思いを寄せ、穏やかに年末年始を過ごしましょう」ということで幾つか書かせていただいています。できるだけ同居のご家族で穏やかな年末年始をお過ごしいただきたいということ

と、年末年始、とかくいろいろな活動、ふだんと違う、例えば初詣だとか、帰省だとか、いろいろな行事がありますけれども、そうしたものも、今年、来年はぜひ「分散化」、「小規模化」、「リモート化」を考えていただきたいということが、一番メインの話になっています。

そして、帰省についても、先ほど往来・訪問については慎重にということを感じた地域についてはお話しさせていただきました。帰省についても、まずはご家族でよくご相談をいただきたいと考えていますし、感染拡大地域から帰ってくる場合や、あるいは帰って来られるご実家に、ご高齢の方とか基礎疾患がある方がいる場合は、特に慎重に考えていただきたいと思っています。

医療関係者の方とお話しすると、やはりコロナウイルスの感染者、陽性者の方が多いときは、診察に当たっても、リスクが高そうな方は、医療関係者もちゃんとした防護をして、必要があれば検査するというような対応で取り組まれています。感染者が多いような地域から来られた方がご家族にいらっしゃるような場合は、医療関係者もそれなりの注意を払っていらっしゃるという話もありますので、そこら辺の状況は、ぜひご理解をいただければありがたいと思います。

それから、このメッセージの3ページのところに「穏やかに年末年始を過ごすために」ということで、やや行政としておせっかいなことを書かせていただいています。ご家族や身近な方同士で電話やオンラインを使用しながら、いつも以上に連絡を取り合って、思いやり、励まし合う言葉を伝えてみませんか、そして、年末年始の過ごし方について、ご家族、職場や地域といった単位で話し合ってみませんかという投げかけをさせていただいています。

私にも、もう95歳の母親が東京の介護施設にいて、全く行き来ができないという状況でありますし、そういう環境の方も大勢いらっしゃると思います。いつも以上に、声をかけ合うとか、例えば学生さんもなかなか移動ができなくて、リモートで友達もできずにいるお子さんとかお孫さんもいらっしゃると思いますので、いつも以上に、家族同士とか知っている人同士はコミュニケーションを取っていただくということが、いろいろな意味で重要だと思いますし、このコロナの対応、先ほど申し上げたように、影響の出方は一様ではないです。

本当に生活に深刻な問題を生じているご家庭もあると思いますし、企業活動とか、ご自分の会社の経営が大変な状況だという方もいらっしゃると思います。本当に一様ではないので、一様ではないということを前提にして、お互い協力し合って、これまでも身近なところで観光してくださいとか、身近な飲食店を応援してくださいというようなことも、県からもお願いをさせていただいたりしました。事業者との関係だけじゃなくて、今、ご家族同士でもこの絆を、もう一回、確かめ合っていたいただきたいと思っています。そういう状況であります。

今、申し上げたのが今の長野県の状況でありますので、県としても、私が、冒頭、長過ぎて、説明してはいけないのかもしれませんが、重要な話なので申し上げれば、対策としては大きく4つの視点があると思っています。

一つは検査体制の強化です。今、おかげさまで、本当に医師会とか医療関係の皆様方の大変なご協力をいただきながら、全県で555の医療機関で検査を受けていただけるような体制に持ってくるこ

とができました。先ほど重症者をなるべく少なくしたいということを申し上げましたけれども、発熱症状があるとか、せきの症状があるという方は、ぜひ早くお医者さんに相談してもらいたいと思っています。医療機関の皆さんには、できるだけ幅広く検査していただきたいというお願いをさせてもらっていますので、ぜひ、心配な症状がある方は、早く検査をしていただきたい。特にご高齢の方とか基礎疾患がある方は、重症化リスクがすごく高い方々でありますので、そういう方はなおさら早く医師に相談いただきたいと思っています。検査体制も1日約4,700件程度の検査を県内でできるような体制になってきていますので、最初スタートした今年の初め頃は1日のPCR検査が数十件という状況から比べると、かなり検査できる件数は増えてきていますので、心配な症状がある方はぜひ検査をしていただきたいと思います。

日本のやり方は、いわゆる積極的疫学調査ということで、陽性の方がいたときには、そのご家族とか、どこで感染した疑いがあるかとか調べて、その濃厚接触者の方をまず検査する。国は基本的に濃厚接触者を検査するということになっているのですけれども、長野県は、なるべく拡大しないようにということで、濃厚接触者ではないけれども、接触した可能性がある人たちも含めて、なるべく広く検査対象にしようということで取り組んでいます。

とりわけ、例えば医療関係とか介護関係で広がってしまうといけないので、そういう場合は、例えばこれまでも医療関係者が陽性になったときに、当該病院の方の全員に検査するというようなこともやってきていますので、我々としては、できるだけ感染が広がらないように抑え込んでいきたいと思えますし、検査はいろいろ議論があるところですが、あまり感染確率が高くなさそうな人たちに検査しても、逆に偽陽性になったりする可能性があるのです。我々は検査したら陽性者が出る可能性が高そうな集団に対しては、無症状の方に対しても検査をしてきています。例えば、一定の地域の一定の職業に従事しているような方については、無症状の方も含めて検査をやり、なるべく感染が広がらないような封じ込めを行ってきていますので、これからもそういう形で、何とかこの検査、あるいは保健所の調査をしっかりやっていきたいと思えます。

保健所の調査には、万が一陽性になられるとか、あるいは濃厚接触者になられるような場合については、ぜひ積極的にご協力をいただきたいと思えます。積極的にご協力いただくことが感染を広げないことにつながりますので、ぜひお願いをしたいと思えます。

それから、病院の病床数の確保、あるいは防護具の確保、こうしたことに取り組んできましたし、我々としては、経済面での対応、いろいろな事業、今日、いろいろお話があると思えますけれども、介護施設であったり、あるいは飲食店であったり、公共交通機関であったり、そうした皆さんに対する支援というものも、この新型コロナの影響を受けている方たちにはしっかり行っていかなければいけない。限られた財源ではありますが、できるだけ支援をしようということで取り組んでまいりました。

それからもう一つが県民の皆様方へのいろいろなお願いです。行政があまりああしろ、こうしろというのを法的根拠なしにやるのは、私はいかがなものかと思っているので、新型コロナウイルス

条例というものをつくらせていただいて、有識者の意見を聞いたり、適正なプロセスを踏みながら、県民の皆様方に、いろいろなお願いをこれまでもさせてきていただいています。そうしたお願い事項、強制にわたるものではないものがほとんどでありますけれども、先ほどご覧いただいたような医療機関の病床もかなりどんどん利用率が増えている状況でありますので、ぜひご協力をいただきたいと思います。

伊藤さん、長くなってしまってごめんなさい。私から冒頭に状況をお伝えさせていただくと同時に、県としての取り組みについて、その一部をご紹介します報告に代えさせていただきたいと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。

【松本地域振興局長 草間康晴】

ありがとうございます。それでは、これからの進行はファシリテーターの伊藤かおるさんをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。ただいま知事から、長野県の現在の状況、そして長野県としての対策、検査体制の強化、病床・防護具の確保、経済面の支援等の対応、条例の制定に基づく県民へのお願い、こういったことを繰り返して積み上げていらっしゃったというご報告を頂戴いたしました。やはりテレビ等でも全国ニュースが非常に流れますが、長野県の特徴、今、長野県で何が起きているのか、そして現場ではどうなっているのか、今日、改めて深めて共有していきたいと思っております。

それでは、お待たせいたしました。まず、子どものミカタプロジェクトの上間様のほうから、子どもたちにつきまして、どんな現状にあるか、それから続きまして、障がい者支援施設のさらの里の施設長でいらっしゃいます三村様から、障がい者の方々の現場での状況についてお話を賜りたいと思います。では上間様お願いいたします。

【上間春江 氏】（子どものミカタプロジェクト代表）

子どものミカタプロジェクト、臨床心理士として教育相談等に携わっております上間春江と申します。コロナ禍での親子の現状ということで、相談現場での印象をお話しさせていただきます。

相談現場の中で一番多い問題は、やはり子どもにどう対応したらいいのか、それが分からないという問題です。これについては、本当に普段でもなかなか解決が難しい問題なのですが、それがこのコロナという状況、誰も経験をしたことのない状況に置かれる中で、本当に多くの親子が様々な困難に見舞われました。

突然、来週から学校がお休みですという中で、大好きなお友達に会えない、寂しいのでオンラインゲームで友達とつながる。そうすると宿題がなかなかできないとか、生活リズムが崩れてしまう。

そういった中でお子さんにどういうふうに接したらいいのか、子ども自身も自分たちがどうしたらいいのかということ、本当になかなか難しい問題としてありました。

特に緊急事態宣言中、外出自粛が求められたとき、私自身は、普段は学校ですとか子育て現場でカウンセラーとして働いておりましたが、まず仕事が一切なくなりました。そこで、私も母親として子どもとともに家庭内で過ごしておりましたが、ゲームの時間のコントロールや生活リズムを整えることなど、やはりその対応を考えるということは非常に簡単ではないなと実感しました。幸い学校は再開され、現在は様々な相談体制が動いておりますが、やはり近況では、長野県でも日々感染が拡大しているという中で、学校に通うということもどうなのだろうとか、対面で誰かに会うということも不安であるというのが一方であります。

こうした中で、私たちは感染リスクがない相談体制というのもつくっていかねばいけないと考え、子どものミカタプロジェクトというのは、臨床心理士が有志で立ち上げた市民団体なのですが、そこでオンラインを使った相談の取り組みというのを行いました。2つ、今年、やってみたのですが、1つ目は子どもたちに焦点を当てて、単発のイベントですが、子どもの声をZoom（ズーム）で聞く会というのを企画させていただきました。こちらは松本地域子ども応援プラットフォームの塩尻地区での地域会議として、NPO法人わおん様と共同で企画しました。

ある子どもが、コロナ対応に自分たちの声が入っていないというのはすごく嫌だと、やっぱり自分たちも意見を表明する場がほしいということを書いてくれたことをきっかけに企画させていただきましたが、当日、9名のお子さんが参加してくれて、様々な意見を話してくれました。本当に好評で、続けてこういう場をつくってほしいということを書かれ、その声を私たちが受け止めたいなと思っております。

2つ目は、お母さん支援ということで、コロナに負けない信州応援基金の助成をいただきまして、子育てコミュニティスクールというようなものを立ち上げました。こちらはオンラインを使った子育て相談ということで、オンライン上の掲示板で参加者がつながりながら、子育ての悩みを分かち合って、その中で、みんなで解決案をコメントし合う中で考えていくというものです。私たちも、相談というのは対面でないとできないと思っていたのですが、オンライン上で顔を合わせなくても、結構、深まった気づきというのが起きていて、相互に支え合う温かなつながりができている実感がして、非常に手応えを多く感じております。

これらの経験を通して、教育現場でも、もっとオンラインを活用していくということも大切だなと思っております。現在、私の息子は県立中学校に通っているのですが、今週から欠席者への授業配信というのも始まって、本当に、親も子も、こういったことを選択できるというのはありがたいなと感じております。ぜひ、何か公的機関でもオンラインを活用した取り組みというのを広げていただけたらなと思っております。長くなりました。ありがとうございます。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。孤立しがちなお一人お一人のお子さん、そしてお母さん、それらをどうやってつないでいるのかということでの取り組み、とてもありがたいお話だなと思いました。

続いて、ささらの里の三村さん、お願いいたします。

【三村仁志氏】(障がい者支援施設ささらの里施設長)

ささらの里の三村と申します。よろしくお願いいたします。

ささらの里は、松本市の内田というところにありまして、最重度の身体障がいの方たちが暮らす施設です。ですので、コロナの対応としてはウイルスを絶対に施設の中に入れてはいけないというところが一番重点になります。日々、LINEで入ってくる県の発出する情報、松本市は今日出なくてよかったとか、そんなことを毎日毎日気にしながら対応を決定しているというような状況です。

主な対応としては、どうしても施設と外部との遮断というところになってしまうのですね。そうすると、その利用者さんの行動制限ですとか、家族との面会を制限するとか、また職員やその家族に対しても、行動の制限をお願いしなければいけない状況があります。知事もおっしゃっていましたが、首都圏とか感染拡大地域との往来というのは非常に厳しくせざるを得ない。ある利用者さんは東京にお住まいのその長男に孫ができて、どうしても会いたいし、抱っこしたいのだけど、なかなか会えないという状況があります。

そもそも自由であるべき人間一人一人に対して、いろいろなことの制約をお願いしなければいけない。人権が優先するのか、それとも命を守る制限が優先するのか、非常に倫理的なジレンマを感じているのが今の状況です。

課題としては、そういった外部との遮断をしますので緊急的な受入れも含めて、なかなか利用者さんの受入れが厳しい、ストップしなければいけないという状況があります。私は長野県の自立支援協議会の権利擁護部会というところに参加させてもらっていますが、そこでの議論も、全県において受入れが厳しいよと、短期入所がストップしてしまっているというような課題が上がっています。

それで、施設の中では制限をかけますので利用者さんにストレスもたまりますし、そこをなるべく工夫して、いろいろな特別メニューを実施したり、市内の洋品店さんに出張販売をしていただいたりというようなことで対応しています。

今後の展望としましては、やはりむやみにそのウイルスを恐れるがために、全てをストップしてしまうとか、全てを制限するとか、全てを遮断するということが我々としては一番悲しいことで、なるべくその地域の状況を勘案しながら、個別化した対応をしたいと思っています。そのためには、松本市内においても、どのような地域で、どんな経路で感染が広がっているのか、そんなことも実は知りたいなと思っています。そういった意味でいくと、福祉や行政だけではなく、医療だけではなく、いろいろな分野の方たちとの多分野の協働というところが必要です。

最後に、施設でクラスター、または感染者が出てしまった場合にどうするかということなのです

が、なかなか入院をさせてもらえないということが他県でも出ています。なるべく、私としては医療機関に入って、安全な生活、治療をしていただきたいと思うわけですが、一応、その施設において、施設内でどういう対応をするかというマニュアルをつくっています。ただ、いかにもその重症の方たちの対応というのは、もう施設では絶対無理ですので、そのときには、本当に保健所をはじめ、いろいろな方たちにご指導を賜りながら、利用者さんの命を守っていきたいと思っています。長くなりました。発表は以上です。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。それでは、知事のほうから、今、子ども、それから障がいをお持ちの方々のお話を伺いましたが、いかがでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

お子さんたちがいろいろなストレスを抱えて、これは子どもさんだけじゃなくて、家族の皆さんが普段以上に閉鎖空間にいるがゆえに、いろいろな家庭の中での課題もたくさん出てくるのだと思いますので、上間さんたちの活動みたいなことを、もっといろいろなところで広がっていくようにできればいいなと思います。

先ほどの話、私が質問してもいいですか。子どもたちの意見表明の場がほしいという中で、「Zoom（ズーム）」で子どもの声を聞く会をされたということですが、子どもたちは、一体どんなことを言っていたかということ差し支えなければ少し教えてもらえるとありがたいのですが。

【上間春江 氏】（子どものミカタプロジェクト代表）

休校中、例えばどんなふうに時間を過ごしたとか、大変だったのはどんなことってということなど、こちらが質問したことについて答えていただきました。休校中はテレビをめちゃくちゃよく見たとか、プライムビデオを見ていたとか、あとは宿題もやったよとか、家のお手伝いしたとか、そういった声もありましたが、休校中、大変だったことについて、兄弟げんかが激しくなってしまったとか、あとすごく嫌な思い出がよみがえっちゃったとか、いつもどおりにいなくてすごいストレスだったと。では、そのストレスにどんなふうに対処したのということ聞いたときに、ゲームとか、本当に好きなことをやって何とか解消していたので、これを、ただ取り上げられるということになってしまうと、ストレスがたまりまくるなというようなことを言っていました。

保護者としては、うちの子もそうだったのですけれども、ゲームにはまると、どうやって時間をコントロールしようかって考えるのですが、子どもたちにとっては、本当にストレス解消の、何とか思いついた大切なツールだったのだなという側面も感じると、そういったことを無視して、ただ単に取り上げるというだけではいけないのだなというようなことを感じたりしました。

やはり宿題が多くてすごく大変だったとか、学校が始まってよかったなというような声が多かつ

たですね。結構、学校への満足度が高いお子さんたちが参加してくれたので、学校が始まってやっぱりよかったなというような声は聞きました。

ただやっぱり感染に対する意識というのは結構強くあって、先生がマスクをつけていないとか、大きな声でしゃべるときにこうやって鼻が出ているとか、そういったことを指摘するお子さんもありましたし、低学年のお子さんで、マスクをしてない子がいて、気になるというようなことに「Zoom（ズーム）」を使ったのでチャットもできるのですが、「分かるわ」みたいなチャットが入ったりして、コロナは怖いので、オンラインも使ってくれるのだったら自分はオンラインを選択したいとか、そういったような声もありました。

一応、議事録みたいなものも取ってあるので、もしよかったら知事にまた差し上げます。ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

では、いただければ参考にさせていただきますので、よろしくお願いします。

三村さん、本当に、日々、医療関係者、介護関係者の皆さん、相当注意をしてもらいながら、介護ケアに当たっていただいている状況で大変ありがたいなと思っています。先ほどお話があった感染経路を知りたいとか、我々の情報の出し方の課題はあると思うのですが、陽性者の数が少ないときは、特定されかねないというところで、抽象化したとしても、あまり具体的なケースは出してなかったのですが、先ほどのように、かなり陽性者の数が増えたので、もう少し情報の出し方は、いつのどこでとか言わないと分からないぐらいの件数になっているので、お話を聞いていて工夫しなければいけないなと思いました。

それから医療機関の皆さんとの連携のところは、我々行政がしっかり考えなければいけない話だと思いますので、今、障がい者施設の方が仮に陽性になったときは、医療機関への受入れは福祉施設側からみると心配な部分があるのでしょうか。

【三村仁志 氏】（障がい者支援施設ささらの里施設長）

県外では、最初にクラスターが起こった知的障がいの施設では職員は入院させてもらったけれども、利用者さんは施設の中に置かれたというようなことが報道では出ています。多分、本当に一切体が動かない方たちですので、日々の介護といえますか、そういったことにも負担が大きいと思うのです。その点で、コロナに限らず、入院ができないというような状況も出てきたりしています。ただ、協力医療機関ですとか、主治医の病院ですとか、連携は常に取っています。

コロナは本当に今まで経験したことがない状況ですので、どうなるか分かりませんが、なるべくいろいろなところで連携しながら、特に情報のところですが、個別の名称とか、個別のケースはいいですね。そんな状況があれば、我々はむやみに制限をかけたくないので、保健所のほうと情報をやり取りしながら、伝えられない部分は伝えられなくても全然構わないのです。そこは大

丈夫だとか、ここら辺はもう緩めていいということだけ分かれば、そんなことの連携が必要なのかなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

分かりました。県の専門家懇談会の中でも、施設で陽性者が出たような場合の要因として考えられることや、あるいはどう対応することが適切かというのは、福祉施設の皆さんには、もう少し情報提供したほうがいいとも指摘されていますので、私もそれは必要だと思っているので、そこはよく考えたいと思います。先ほどの医療と福祉の連携のところは逆のお願いもあって、先ほどご覧いただいたように、ご高齢の方とか入院される方は増えていて介護が必要な方もいらっしゃる中で、医療機関側からは、福祉の介護士の人とか、防護具のつけ方を研修してもらって医療側にも手伝ってもらえないかという声もある。今のお話で感じたのは、医療と福祉がお互いに協力し合う体制も必要だなというのをすごく感じました。ありがとうございます。

【三村仁志 氏】（障がい者支援施設ささらの里施設長）

時間がないところすみません。ドクターがうちはいないものですから夜間は看護師もいません。なので、話していたのですが「入院させてもらえれば職員をそちらに派遣したほうが、我々はすごく良いよね」なんていう話も職員の中では出ています。

【長野県知事 阿部守一】

では職員の方も一緒に来ていただくと。

【三村仁志 氏】（障がい者支援施設ささらの里施設長）

そうです。入院させていただく代わりに、我々がそちらへ行って介護したりとかという話もありました。

【長野県知事 阿部守一】

分かりました。それはぜひしっかり考えたいと思いますので、そのときの課題は、なかなか防護具の着脱もちゃんと感染しないようにやるのは医療関係者の人たちも苦勞されているところもあるので、介護される方たちも日頃そういうことを訓練しておいていただくとか、その点も必要だと思いますので、しっかりと我々の課題として考えたいと思います。

【三村仁志 氏】（障がい者支援施設ささらの里施設長）

ありがとうございます。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。それでは、次に産業面に与えた影響、特に影響のあった交通・観光業と飲食の分野から、それぞれお話をいただければと思います。それでは、南安交通の小岩井様と、それから酒楽の磯尾様からお話をいただければと思います。では小岩井様、お願いいたします。

【小岩井清志 氏】（南安タクシー（有）代表取締役）

ただいまご紹介いただきました、南安タクシーを運営している小岩井と申します。私の立場ですが、今年の6月から安曇野市観光協会の会長も務めている関係で、その観光協会の立場と運輸事業者の立場という二面性の中でお話をさせていただきたいと思います。

最初に現状と課題、取組内容、今後の展望ということでお話しさせていただきたいと思いますが、時間の許す限りということになると思いますので、途中で失礼することもあるかと思っておりますので、ご承知いただきたい。

まず現状と課題ですが、コロナウイルスの影響が深刻化してきたのが2020年の3月からと認識しております。それまでの2020年の1年間を数値化してきましたのでお知らせしたい。それと同時に、その数値化の基になるのは安曇野市の宿泊者数です。それと比較していただきたいということで、タクシー運送収入の数値を併せてお話ししたいと思っておりますので、お聞きいただきたいと思っております。

まず2020年1月、宿泊者数111%、対前年ですね。タクシー利用者、これは運送収入ですが、対前年116%、この数字は安曇野市のタクシー事業者3社あるのですが、とりあえず弊社のみ数字になっておりますのでご承知ください。宿泊者数につきましては、観光協会が把握している数字ということですが、一定の方向性が出ているのではないかなと思っております。

2月につきましては、宿泊者数は103%、タクシーのほうは123%。3月になりまして、宿泊者数は40%、タクシーの運送収入77.5%。4月は、宿泊者数6%、タクシーのほうは43.8%。この4月から、小・中学校でしたか、恐らく休校になっているかと思っておりますが、そういった影響も出ているのかなと。4月、5月でしたね、休校は確か。5月の宿泊者数は3%、タクシーのほうは39%。6月、宿泊者数23%、タクシーは67%です。7月、宿泊者数44%、タクシーは59%。この7月に、私どものタクシーにコロナウイルス感染者ということになるのですかね、陽性の方が病院へ行くということで1回乗車していますし、病院から家へ帰るということで計2回乗車されております。そんな中で風評被害的な部分もあるのかなと考えております。

8月におきましては、宿泊者数50%、タクシー68%。9月は67%、宿泊者数ですね、タクシーは77%。10月、宿泊者数97%、タクシーは101%、この辺は、Go To キャンペーンの効果が出ているのかなということで考えております。11月は、宿泊者数92%、タクシーは85%。11月中旬だったでしょうか、長野県下のコロナウイルスということがニュースをにぎわす中で、右肩下がりが始まりました。12月8日現在、宿泊者数88%、タクシーは、10日現在ですけれども、90%。これ以降、ものすごい落ち込みが激しいのではないのかなと想像しております。全体としましては、宿泊者数、年

間を通しまして55%、タクシーのほうは79%、特に夜の酔客というのですか、夜のお客様が激減しているという状況でございます。

課題等につきまして続けますけれども、私どもは平成24年度より安曇野市観光協会を一般社団法人化し、来年度で創立10周年を迎えているところでございます。安曇野市の観光を進める上で、10年計画として「安曇野市観光ビジョン」を策定。令和4年に見直しが予定され、アフターコロナの中で今後の観光の在り方を模索しているところでございます。

問題点としまして、穂高地区、これはコロナの影響ということなのですが、穂高地区の観光施設、大型観光施設、宿泊施設、タクシー事業者、春先に1社がコロナの影響が大きいということで事業を廃止。つい最近、松本の老舗のあるタクシー業者さんも、大手のタクシー会社の傘下に入るという情報を聞いております。また、そば店等が休業または廃業し、深刻な影響が今後懸念されているところでございます。

安曇野市は、特に山岳観光ということで、多くのお客様にいらしていただいたのですが、もちろんコロナの影響下の中で、自家用車の利用者が大変目立ちました。コロナ禍の影響で山小屋は完全予約制を導入。昨年までは1畳に2人とかいうことで宿泊の方がいらしたということでしたが、完全予約制で、3密を避けるということで登山者にとっての評判は大変いいですね。相当に日帰り客が多かったということです。登山者の流れ、または観光客の意識が変わってきたような感じを受けております。

また、二次交通の見直しということを考えておるのですが、その中には、定額のタクシーの運行、これは松本空港・松本駅から上高地間は定額、上田駅から安曇野市山岳登山基地4か所についても定額です。定額タクシーというものは、タクシーというのに乗って見ないと運賃は分からないのですが、最初から言い切っている運賃体系です。これは認可運賃ということになっております。

路線バスにおいては、安曇野市は観光シーズンにあづみ野周遊バスを運行させていただいております。これはコロナ禍の影響で通常でしたら4月から11月の運行を予定していたのですが、今年度は7月、8月の2か月のみの運行になっております。

それと今後については「安曇野つなぐプロジェクト」に参加しております。どういったことかと言いますと「安曇野3安宣言」、安全の安ですね、安心の安、心安らぐおもてなしの安、これを取りまして3安宣言ということで、その中には、コロナ防止策をうたったマスク越しでも伝わる笑顔、ビニールカーテン越しでも伝わる温かさ、対人距離があっても伝わる気持ちということで推進させていただいておるところでございます。

また、感染防止策を講じながら関係省庁等の支援制度を利用して商品造成に努め、誘客につなげているところでございます。また、そういった情報等は会員に対して支援制度をお知らせしているところです。

それと、今後の展望と今後の課題ですが、安全・安心な地域づくり支援事業というものがありま

して、これも県の事業だと思えるのですけれども、その一環であるところの、新型コロナウイルスの感染が疑われる旅行者の受診体制構築を観光協会が主体になって進めているところです。どういうことかと申しますと、観光客の方がホテルに宿泊している最中に具合が悪くなった時に具合が悪くなっただけで救急車を呼べるのかという問題点等がございまして、そういった方は、関係者の皆さんや保健所さんと相談して病院等を紹介していただく。そして足の部分としてタクシーがそこへお迎えに行き、その病院にお運びする。これは観光協会、運輸事業者、宿泊事業者が三つどもえの事業展開ということで、今、まさに事業を進めようという、スタートする段階になっているところです。

今後の展望ということで、いろいろな事業展開のお話はありますけれども、話し出しますとその辺は長くなりますので、この後のご質問等の時間があるのであれば、その中でお答えしていきたいと考えております。私としては以上ですので、よろしく願いいたします。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。1年間、非常に数値的にいかに厳しい状況だったかということと、しかし、それを踏まえて、新型コロナウイルスに実際に感染した観光客さんも含めて、どのように事業者として関わっていくかという大切なお話、ありがとうございます。

では続きまして、酒楽の磯尾さん、お願いいたします。

【磯尾広志 氏】（株）酒楽代表取締役社長

株式会社酒楽の磯尾と申します。私は飲食店を経営して、初めてというか、こんなコロナと台風ということで、昨年は北信の台風被害で、長野市・松本市の飲食店も全然人が来ない状態が続きまして、それで今年のコロナということで、飲食店は今、現状は瀕死の状態というか、非常に厳しい状態ですね。前年の売上の半分以上をキープできればいいのかなという感じの状態の中、いつ廃業に追い込まれるかという企業も多々出てくるとは思います。

そんな中、商店街としても駅前の飲食店のコロナ対策に対する試みをアピールするためにウェブサイトをつくったり、お客様方が安心して来られるコロナ対策をしていますよという意味合いで、ナイトテラスとかいう、外で飲める、外で飲食できるイベントを組んだりということで、集客をしてお客様に安心して飲食できるよということをアピールしていく活動にも取り組んでいます。

今後の展望と言いましても、ここまでコロナがひどく続くということが想定外でしたので、ここからのGo To トラベルだったり、行政のいろいろな支援などを期待しつつ、何とかお客様が安心して来店できるように心がけてやっていきたいなと思っています。すみません、短いですがそんなところです。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

とんでもないです。とても厳しい状況の中で商店街全体としても、ナイトテラスとか、様々な情報発信をされていらした積み重ねがあたりなのだと改めて感じました。

今日はお時間が午後7時半ぐらいまでのお時間と承っております、本来なら、ここで知事からまたご質問等をいただきたいところなのですが、ぜひ、今日、寒い雪の中たくさんお集まりいただきました会場の皆様から、ご質問とか、ご意見も賜りたいと思っております。もしよろしければ挙手していただきまして、マイクをお持ちいたしますので、皆様、今日のパネラーの皆様に関わるということではなくて結構でございますので、今、皆様の感じていらっしゃるご意見なり、ご感想でも結構ですし、ご質問でも結構です。現状に対しまして、またはこれからにつきまして、ぜひ挙手をいただければと存じます。いかがでございましょうか、ありがとうございます。ではこちらの方にマイクをお渡しいただけますか。お願いいたします。

【参加者A】

コロナの関係で2点、知事に質問がありまして、まず1点目は県のコロナ対策のことで人事の件。それから2点目はコロナ後の道路行政について、この2点について質問させていただきたいと思っております。

1点目ですが、先ほど知事のほうから松本保健所の話も出ましたが、松本市の中核市推進室長に、県のほうから出向されて来ている方がいらっしゃいますけれども、この方は感染症対策の専門家の医師ということで、一旦、松本市のほうに出向されて来ていたのですが、コロナの感染が広がった4月、5月ですかね、県のほうにお戻りになられて、先日、10月、11月ですか、また再び松本市のほうへ中核市推進室長ということで出向されてきたと。ところが先ほどの知事の説明にもありましたとおり、特に北信圏域で非常にコロナの感染が広がっているということで、非常に貴重な人材で医療体制の人手不足も叫ばれる中、この専門家の県への再引上げというか、そういったことがあるのかないのかということについて、お伺いしたいと思います。

それから2点目なのですが、コロナ後の道路行政について聞きたいのですが、いろいろやらなければいけない県政の課題というのはあると思いますが、今は道路とか、箱物とかより、ひょっとするとコロナの対策ということになると思いますが、前の県知事の村井仁知事ごときに、これ、中部縦貫道のことでございますけれども、中部縦貫道の波田～中ノ湯間については、工事で事故もあったものですから、いわゆる高規格道路の整備よりも現道の改築を優先するという方針が示されて、新聞でも報道されて、その後の阿部県政下でも、奈川渡の改良・改築工事、あるいは狸平の工事等、現状は進んでいるような状況だと思います。

問題は先線ではなくて、松本市民としてはその先線の手前の松本JCTと波田インターの間の5.3キロ、松本波田道路なのですが、この区間、専門家の指摘によりますと、158号線の現道の改築予算を松本波田道路の新築工事に流用しているのではないかと、その疑念を指摘されている専門家がいます、実際にこの専門家グループは、その県選出の立憲民主党の国会議員と連

絡を取りながら、来月にも国の会計監査院に行って連絡を取り合いながらやっているという状況。そんな中、松本波田道路の反対派というのが根強くあるのですけれども、昨日、ルート上に反対小屋が建設されているというような状況なのですね。

それで知事に質問なのですけれども、波田～中ノ湯間のいわゆる先線については、158号の現道の改築を優先するということの方針については変わりがないのかということと、もし松本波田道路の反対運動の地元の盛り上がりについて所見があれば教えてください。以上でございます。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ご質問、2つありがとうございます。大変申し訳ございませんが、お時間が限られていることもありまして「県民一体となってコロナ禍をどう乗り切るか」というところでご質問を絞らせていただければ大変ありがたく存じます。1つ目の県のコロナ対策の中での人事配置ということで、人材交流等で何か知事のほうでお答えできることがありましたら、お願いできますでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

道路の話は、また別途ということで。今、人事の話がありましたけど、松本市、保健所設置市になる中核市に移行ということで、この間、大分、人事交流させていただいています。お話があったように、我々はコロナ対応で必要な人員については松本市とも相談をさせていただいた上で対応しています。これは人事の話なので将来的にどうなるかというのは確約できないところもありますけれども、今の状況は松本市の保健所設置に向けた業務が最後の追い込みの状況ですので、基本的には松本市が対応をしっかりとやってもらうということが必要な局面だと思っています。そういう意味で、私のところで、今、どうこうということは全く考えてないというのが現状です。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

どうもありがとうございます。ご質問を絞らせていただいて申し訳ございません。続きまして、ほかにいかがでしょうか、もうお一方か、お二方ぐらいで、お願いいたします、あちらの方に。

【参加者B】

コロナウイルス騒動で学校が休校になった期間の「Zoom（ズーム）」を使った遠隔授業に関する質問をさせていただきます。実際に事例としては工業高校、具体的には池田工業高校のことなのですが。工業高校であっても生徒がパソコンを使えない。そして先生も「Zoom（ズーム）」による遠隔授業の指導ができない。だから早くて長い春休みの3月、4月、5月、6月の4か月の期間に、3センチほどの厚さの紙の宿題をポーンと出して、それで「はい、やっておいて」。「そこから先の期間はもう授業をやらないからね」で、放り投げて終わりになった。生徒さんたちは、実際のところ夜もゲーム三昧で、昼間はお昼まで寝ているような生活にどっぷりつかっちゃいました。そこで、

結構その癖が抜けずに土曜日、日曜日は24時から未明の午前5時まで、やっぱりゲームをやる癖が
ついてしまって、ネット上に24時に対戦相手が上がってくるものですから。

ここで質問をしたいのは、実際にコロナウイルス対策をやっていますと県では言いながら、教育
現場の工業高校でさえ実際に遠隔授業での授業配信がすぐさま対応できなかった。そして今も対応
していません。そういう現状について、実際に池田工業高校って、建築学科の先生方が6人いるの
ですが、誰一人として建築士の免許を持っていません。その水準だから、やっぱり勉強が嫌いなの
だろうなというのはご父兄のほうから声を寄せられています。

だから、機材がないというよりも、先生が勉強する気がないなというのが現状かな。悲しい話、
次の進学先の建築の大学校の入学試験がウェブ面接、Zoomを使った面接試験をしますよというので
学校は全く対応しなかったから、しょうがないから私が教えたという。3回にわたってZoomの使い
方、そして背景、そんな汚いベッドの見えるところじゃだめじゃないかなんて言いながら教えて
「ヘッドセット、口元にマイクを持って行ってやるのだよ」、「格好も大事だよ」なんて言いながら
教えて、やっと合格通知が来たというような、そんなような体制ですので、教育の現場においての
コロナウイルス騒動、今日のタウンミーティングの一番の議題ですが、そこについては、どのよう
に現状把握をされ、どのように改善されるのかを阿部守一知事のご意見をいただきたいと思いま
す。お願いいたします。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。いかがでしょうか、知事。

【長野県知事 阿部守一】

高校生の応援をしていただいてありがとうございます。今、お話があったように、学校における
ICTの活用とかZoomの活用というのは、ご指摘あったように、今回の新型コロナウイルスの対応
で非常に立ち遅れているということは如実に現れたと思っています。今、GIGAスクールという
ことで、義務教育と高校もIT化を進めようということをやっていますけれども、私の問題意識は、
おっしゃるようにハードの整備をしても、それはやっぱり教える人材、あるいはITを活用して、
授業の在り方というのも本来変わらなければいけないわけで、今やっていることをそのまま単にIT
を使って、あるいはオンラインを使ってやるということでは不十分だと思っています。

実は、先ほど申し上げた市町村長との懇談の中でも、GIGAスクールの話が出ていたのですけ
れども、今、教育委員会に言って「IT教育推進センター（仮称）」のようなものをつくろうと思っ
ています。これは何をするかといったら、学校のIT化が進んでハードが進んだときに、どうい
う内容で教育するかとか、先ほどおっしゃったように、教員の皆さんにもちゃんと使って使いこな
せるような、教えられるようなことをやっていかなければいけない。

今、新型コロナ禍で好むと好まざるにかかわらず、そういうことを迫られてきましたので、研修

は取り組み始めていますけれども、本来のITを活用した教育の在り方をどうするかということは、しっかり長野県としては取り組んでいきたいと思っておりますので、今、事例をご紹介いただきましたので、私も十分頭の中に置いて、これから教育委員会と具体的にどういう形で進めていくかを検討しますので、そういう中で今のお話も承ったことを反映できるようにしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。ありがとうございます。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。もしよろしければ、最後にお一人、前の方、どうぞ、お願いたします。

【参加者C】

コロナについては、私はニュース的には新聞とラジオくらいしか入ってこないのですが、全体的なことや国のことは大体分かります。そして県のほうは、長野県よりむしろ北海道とか東京、そして大阪の状態のほうがよく分かってきて、いざ、地元の長野県のことがあまり分からなかったけど。今日、ここへ来て、よく分かったのですけど。

そこで、私が心配しているのは、過去にこのような、スペイン風邪とか、ああいうのはあったのですが、あれ、4年ぐらいかかって収束したとかということを聞いているのですけど。今、これ、1年ぐらいで終わると思ったのが、来年いっぱい駄目だと思う。再来年にもかかると思うのですが、上の人たちは、別に国、首相、知事たちは、どういう形でこれが例えば終わるかということを想定してやっているのかなということを聞きたいと思うのですよね。

本を読んでいくと、全員抗体を持つようになれば完全に収束するというけど、その場合は日本の場合、500万人～600万人死ぬというからね。それとワクチンといっても、ワクチンも、やっぱり日本人には怖いようなところもあるしね。だから、どういう形になるということを想定してやっているのかということが難しい問題ですけど、分かればそれに沿ってやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。知事、いかがでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

どういう形で収束を迎えられるかというのは、正直言って私にも見えないところがたくさんあります。一つは、今お話に出たワクチンの話で、実際に今日も、これもまた先ほどの市町村長の皆さんとの懇談の話の中でも出てきたのですけれども、我々も国からワクチン接種の順番をどうするかみたいなことを県に意見を聞かれて、専門家懇談会に諮って回答したりしてきていますので、ワクチンの接種が具体的になってくると、可能性としてはワクチン接種で抑え込むというのはあり得る

と思っています。ただ、まだワクチンが、今、世界では始まっていますけれども、いろいろな懸念を持たれている方もいらっしゃる状況ですので、そこはこれからどう展開していくかというのは、我々も読み切れないところがあります。

それからもう一つは、先ほどお話があったように、多くの方が免疫を獲得していくということがあると思います。これは政府が地域限定で抗体検査をやって、どれぐらいの方たちが、実はもう感染して抗体を持っているかという検査を始めていますので、そうした調査の状況を見ないと、それが本当に軽症・無症状で、実は多くの方がもう既に感染している、あるいは抗体を持っているという状況になっているのかどうかというのは、まだよく分からないと思っています。そういう意味で、幾つか可能性としてはあると思いますけれども、今の段階でこういう形で収束するというのを、私としては断言がなかなかできないなと思っています。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。はい、ではお願いいたします。

【参加者D】

県民一体となってという知事のお言葉ですから、パネラーの4名の方も、必ず、何ていいますか、県政のほうにコミットしていると思うのですけれども。特に伊藤さんは経営者ですから、いわゆる家賃補助とか給付金だとか、そういったことを県政のほうへ訴えているとか、申請とかしていると思いますけれども。私が県にお願いしたいのは、県へ県民の方々が問合せをしたときに、まず県の職員が「いや、それは担当部署が違いますから」とか、例えばコロナウイルス対策室かな、そこへ行ったら「いや、それは担当が違いますから産業労働部に聞いてください」とか、あとは保健所に行ったら「いや、それは違いますから、県庁のほうに聞いてください」というふうに、必ず経験あると思うのですよ、皆さん。これを私はやめていただいて、やはりまず電話を受けた窓口で「いやいや、えらい目になったね。私どもで調べるから待っていてください」と。それで「いや、調べた結果がこうだから、こちらのほうへ改めて電話をしてください」というふうに、県の職員さんが寄り添っていかないと私はいけないと思いますよ。それを知事に要望したいです。以上です。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございます。県民一体となると同時に、県庁も一体になっていただいて、本当に総ぐるみで寄り添い合いながら進めていくべき事態なのだろうなというふうに、改めて、今のお話で感じました。お時間となりますので、最後にもっともっといろいろなお話をお伺いし、パネラーの方からもご意見いただきたいところなのですけれども、先ほど産業ですとか観光のお話もございました。知事のほうから最後に総括のコメントを頂戴できますでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございました。今のご指摘もよく承っておきます。ぜひ県民の皆さんに信頼される県庁にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

小岩井さんと磯尾さんのお話に対して何もコメントしなかったのですが、観光あるいはタクシーとか、山小屋とか、観光関係産業は非常に裾野が広い中で非常に厳しい状況だというのは、私もいろいろな旅館・ホテル組合の皆さんとか、バス・タクシーの皆さんとか、いろいろな方とお話をさせていただいているので、分かっているつもりです。つもりというのは、本当の実際の厳しさのところまで、おまえ、分かっているのかと言われると、まだ分かってないところもあるかもしれないので、分かっていると思っておりますが断言はできません。

何とか協力し合って乗り越えていかなければいけないと思っておりますので、お話があったように、Go Toトラベルについて年末年始は停止という形になるので、今日もぶら下がり会見のときに申し上げましたが、今までのGo Toトラベルというのは、本当はアクセルのはずなのですが、今は、どっちかという、それがベースで人が動いてしまっているということなので、止めるということは、本来、アクセルを外すのではなくて、今はどちらかというブレーキ側になっています。それは人の動きを止めていくという意味ではプラスの効果ですが、小岩井さんをはじめとして観光関係に携わっている皆さんにとっては、ブレーキを急に踏まれるという形になるので、そこは我々もしっかり考えなければいけませんし、国に対しても、しっかりとした支援とセットでやってくれということは強く言っていかなければいけないと思っております。そこは観光関係の皆さんとか交通関係の皆さんとも意見交換をさせていただいておりますけれども、ぜひ一緒に、そういうところは取り組んでいきたいと思っております。

それから磯尾さんの飲食の話は、どうしても食事するときにマスクを外すということなので、一番影響を受けてしまう業種になってしまっていると思っております。プラスワン消費促進事業ということで、県も市町村に補助金を出したりして、できるだけ地域の消費をしてもらおうという取り組みをやってきていますが、また厳しい局面になりそうな状況になりつつありますので、必要なときには、しっかりとした支援策を考えていかなければいけないと思っておりますし、多くの市町村長の皆さんも同じ感覚だと思っておりますので、そこは市長会・町村会の皆さんとは今週末に話をすることになっておりますので、今、Go Toトラベルが一時停止になって、そして先ほどご覧いただいたように、県内の陽性者数が増える中で、行政の要請がなくても人の動きが大分止まる方向になっていくと思っておりますので、そうした局面でどういう対策が必要かということは我々も考えますし、ぜひ皆さんの側からもいろいろなご意見を出していただければありがたいと思っております。

時間が過ぎていきますけれども、今日、私が冒頭で長く話し過ぎてしまったこともあって、少し時間が短くなってしまいましたけれども、今日もいろいろな分野のお話を聞かせていただきましたけれども、それぞれ違うのですよね。それぞれ違う課題とか違う悩みがありますけれども、もとは新型コロナウイルスの問題です。私は、今、問われているのは人と人との絆だと思っております。多く

の皆さんが、お互いをやっぱり思い合って、支え合う気持ちを強く持っていただくことが、この困難を一緒になって乗り越えていくことにつながってくると思います。

そして、我々行政はそうした情緒的な話だけではなくて、先ほど申し上げたように検査・調査の充実であったり、あるいは医療関係者の皆さんには今でも大変ご負担をかけていますけれども、さらなる医療体制の充実であったり、そうしたことにこれからも全力で取り組んでいきたいと思っています。

そうしたことを、ぜひ皆さんには支えてもらいたいと思っています。医療従事者とか介護の職員に対する誹謗中傷ということも言われた時期がありました。今はそういうことはない信じたいと思いますけれども、でもやっぱり、コロナウイルスに感染リスクが高い人たちとか、あるいは陽性になった人たちに対しての世の中の接し方というのは、まだまだ課題があるのではないかなと思います。そうしたことは、めぐりめぐって自分たちの不利益につながってしまいかねないと思っています。

ご高齢の方を一緒に守ってもらいたいと思っていますが、あるお医者さんの話を聞いて愕然としたのは、新型コロナウイルスで検査して陽性になられたお年寄りの方に「どうしてもっと早くお医者さんに相談しなかったの」と聞いてみたら、「いや、万が一、検査して陽性になると家族や地域に迷惑をかけるのではないかと思って、なかなか検査、相談しづらかった」と話されていた方がいらっしゃったと伺っています。

本当に、地域にとっても、ご家族にとっても、逆にその方自体は、地域に対して、家族に対しての思いやりを持ってもらっているのだと思いますけれども、でも本当は逆にマイナスになってしまう。ぜひ、こういうことが現実起きてしまっているということは、多くの皆さんに知っていただきたいです。

誰でもかかる可能性があります。私ももしかしたらかかる可能性があるなと思いながら、毎日、手洗いとか、手指消毒とかやっています。決して陽性になった人が悪いのではなくて、我々が向き合わなければいけないのは、協力し合って、新型コロナウイルスと闘っていくということですので、ぜひ、この点については、皆さんと意識を共有させていただければありがたいなと思います。

今日、時間があまり足りなくて議論をなかなか深められなかったところはありますけれども、我々も引き続き年末年始に向けて、また、その先に向けて、しっかりと新型コロナウイルスと向き合って取り組んでいきたいと思っています。

今日は、伊藤さんをはじめ、パネリストの皆さんには、大変お忙しい中、ご協力いただきまして、大変ありがたく思っておりますし、また、ぜひ率直に意見交換をさせていただきながら、同じ方向を向いて進んでいきたいと思っておりますし、会場の皆さんにも、一緒になって取り組みを進めてもらいたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。

【ファシリテーター 伊藤かおる 氏】

ありがとうございました。進行にご協力いただきまして、会場の皆様、パネラーの皆様、そして知事、大変ありがとうございました。それでは、マイクを司会の局長のほうにお渡しいたします。

【松本地域振興局長 草間康晴】

本日は、パネラーの皆様、また伊藤様、本当にありがとうございました。また、この会にご出席をいただきました皆様、本当にありがとうございました。以上を持ちまして本日のタウンミーティングを終了いたします。どうもありがとうございました。